



# 学力ほか社会への関心高まる



宇都宮市立 教諭  
豊郷中央小学校 NIEアドバイザー  
堀内 多恵

本校は児童会活動の一環で「ニュース委員会」を2017年に新設し、子供の手でつくるNIE活動を進めている。子供のアイデアを生かし、社会情勢や学校生活の話題を学校新聞などで発信し、主体的に学ぶ力の育成を図ってきた。その上で、教育活動とNIEを関連付けて本校の教育目標とビジョンの実現を目指した。

これまでの全国学力・学習状況調査結果から、複数の資料を関連付ける読解力や論理的な表現力強化に課題が見えていた。そこで新聞活用に着目し、17年度からNIE実践指定校として取り組んできた。NIEの裾野を家庭や地域に広げ、子供が新聞に親しみ、社会や地域とつながり、思考力・判断力・表現力

を高めるために、学年や発達段階に合わせた系統的な指導をしている。

19年度からは、NIEを全校で実践し、朝の時間を「ニュースタイム」とし、表現力の育成と対話を重視。学校組織として、縦割り班活動にもNIEを取り入れ、他学年と協働し新たな価値を培う学びを実践している。

現在は学校図書館で、本と新聞をつなぐ取り組みにも力を入れていく。学校司書とともに、本と関連する新聞記事を紹介する。「新聞パズル」コーナーでは、季節や行事に関する記事を子供から募集している。総合学習では、新聞記事を基に各自テーマをSDGsの視点で考え、チームで課題を追究した。討論会をしたり、新聞に投稿したりもしている。

## 書く活動を意欲的に実践

日常的に新聞を活用し、書く活動に意欲的に取り組んだこと

で、実践2年目の18年度全国学力・学習状況調査の「書く能力」では、本校の国語Aの正答率が81・8%で、全国(公立)を8ポイント上回った。また、国語Bが2年連続、全国平均を越えた(表)。

児童質問紙の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」では87・5%が肯定的に回答。県

# 全教員が活用の意義認識



早島町立 教諭  
早島中学校 NIEアドバイザー  
赤堀 恵一

畳表の原料であるいぐさの栽培で栄えた町は、現在「教育の町」として、自立・共生・郷土早島を愛する心を育む学校園を目指している。

NIEの実践活動を通し、視野を広げ、正しく判断し、自分の考えを表現できる力を育成し

## 6年生の平均正答率 (全国学力・学習状況調査結果から)

【国語A 主として知識】			
「書く能力」	全国(公立)	本校	
2018年度	73.8%	81.8%	
2017年度	60.6%	64.7%	

【国語B 主として活用】			
「書く能力」	全国(公立)	本校	
2018年度	45.6%	49.3%	
2017年度	53.4%	58.8%	

平均を9ポイント上回り、主体的な話し合いができていくこと

ようと考えた。教科横断的に新聞に親しめる環境を作り、小中連携や地域発信につなげる取り組みを行った。

教科では、社説の比較や記事のスクラップなどで、自分の考えを表現する取り組みを行った。総合的な学習の時間では、新聞社の出前授業で新聞の特性について学び、早島町の魅力を伝えるための新聞を制作して地域に発信できた。また、この取り組みが新聞に掲載され、学校生活

が分かる。宇都宮市学習内容定着度調査でも、「世の中のことへの興味・関心」の肯定割合も90%を超え、日頃の積み重ねの大きさを感じた。新聞を活用し、さまざまな人に着目して考える道徳授業やキャリア教育などを行った成果だと考える。

今後も、地域や社会の出来事を自分のこととして捉える子供を育み、「活字」を重視する新聞活用の教育を充実させたい。

と社会の結びつきを実感できたことで自己肯定感が育まれ、主体的な行動が身につき始めた。同時に、落ち着いて学校生活を送れるようになった。

さらにこの影響から、中学校の部活動を小学6年生に対して発信しようと、文化委員が中心となって新聞を制作した。制作活動の中で、記事の書き方や見出しの工夫について上級生が下級生にアドバイスするなど、学年間の縦断的な取り組みも行えた。異学年が頻りに交流し合うことで、互いに刺激を受けながら認め合えるようになったこと

特集 NIEの学習効果

は、一つの成果と考える。  
紙面と生徒つなぐ魅力実感

教員にNIE実践の事前事後アンケートを実施したところ、「生徒が意欲的に勉強に取り組んでいる」と答えた教員が65%から95%に増えるなど、主体的に勉強に取り組む様子が見

家族で社会を語るきっかけに



越前町立 糸生小学校 教諭 木下 孝治

本校は、2018年度より2年間、NIE実践指定校になり、「新聞に親しむことからはじめるNIE実践」をテーマに活動した。家庭でも新聞に親しんでもらいたいとの考えから、夏季休業中の宿題として、3年生以上の全員で「いっしょに読もう！新聞コンクール」に取り組んだ。ただでさえ宿題が多い中、新たに宿題を出すことや保護者

える形で変わった。2年生は岡山県学力・学習状況調査（東京書籍）で2018年度に4教科総合が全国平均を6・9ポイント下回っていたが、19年度の5教科総合で22・0ポイント上回った。3年生は18年度岡山県調査、19年度全国学力・学習状況調査とともに全国平均を超えた。

の協力が必要なことなどへのためらいもあったが、家族で新聞に親しむのにちょうどよいと考え、取り組むことにした。

1学期の保護者会で、当年度からNIEの実践指定校になったこと、新聞を活用して授業を行っていくこと、家庭でも、新聞やニュースなどに興味を持ってよう協力してほしいこと——を校長から保護者者にお願いした。新聞を購読していない家庭もあるため、1学期の授業で、何日分もの各紙を用意し、自由に読む時間を設けた。その中で自分の興味に合った記事を見つけ、

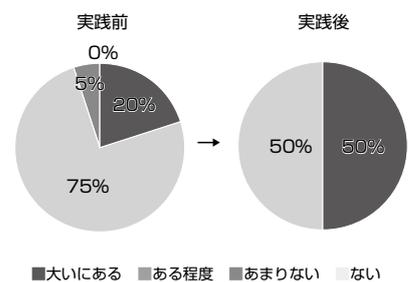
NIEの取り組みが学習効果の向上につながったと考える。また、すべての教員が新聞を活用することに意義があると答え、大いに意義があると答えた教員は20%から50%に上昇した（図）。紙面と生徒たちの生活をつなぐ役目を果たすのも教員の仕事の魅力の一つであり、今回

家庭に持ち帰り、夏季休業中に家族とコンクールに取り組めるようにした。家族の方からも記事に対するたくさん意見が寄せられ、これをきっかけに、新聞を見て家族で話すという経験ができた。

児童の家庭での様子を知るために、学校評価の一環で保護者対象に「お子さんと新聞やニュース番組で紹介される社会のできごとなどについて、話すことがありますか」というアンケートを行った（図）。前年度（例えば18年度1年生が19年度に2年生になって）からどのように変化したかを調査した。その結果、

保護者が感じた児童の変化

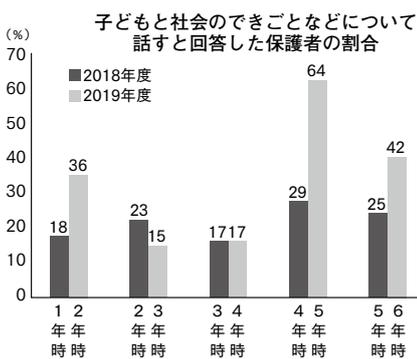
(教員アンケート) 新聞活用の意義



※「ない」と回答した教師はいない

5学年中3学年で「ある」と答えた割合が増えていた。特に高学年での上昇率が高かった。

アンケートの自由記述欄には、1年目には「家でも新聞を読む習慣をつけたいので、学校の授業での様子を教えてほしい」という意見があった。2年目には、



「子どもが家で新聞を読むことが多くなった。しかも1面から」という意見もあった。全ての家庭とはいえないが、保護者もNIEに関心を持っていることがわかった。

この2年間は実践指定校として、本校が新聞で紹介されることが多かった。児童の活動が紹介された新聞切り抜きを学校の玄関正面に掲示して、保護者や来校者にも見ってもらった。学校で行われている活動を、新聞を通して保護者や地域に知ってもらえたことや、報道をきっかけに児童のみならず保護者、地域の方々や学校や新聞に興味を持つようになったことが大きな成果であった。

# 休校中の学びに新聞を

新型コロナウイルス感染拡大により、本年3〜5月に全国一斉の臨時休校措置が取られた。未曾有の事態に各地の先生方は工夫を凝らし、自宅学習やオンライン授業により学びを止めない努力が続けられた。ここでは、休校中もNIEを地道に実施した学校の取り組みを紹介し、新しいNIEの可能性を探った。

## 「はがき新聞」につなげる



江戸川区立  
南篠崎小学校 校長  
豊澤 みどり

学校の臨時休業が続く4月、本校に着任した。以前から関心のあった「はがき新聞」の実践者が校内において、全校で取り組むことができそうだという大きな期待を抱いていた。

ところが、始業式は校内放送で、入学式は簡素におこなうなど、全校児童の前で話す機会をもてないまま、再び臨時休業となった。

ホームページや連絡メールを駆使しても、こちらからの一方的な発信になってしまう。528

人の児童とどのようにコミュニケーションをとったらよいか。子どもの気持ちに寄り添い、子どもが学校や新しい校長に興味や期待をもってもらえる方法はないか。

そこで、はがきサイズの「自己紹介カード」を作ってもらったことにした。「早く皆さんと会いたいな。早く皆さんの顔と名前を覚えたいな」と思っています」という手紙を添えて。

カードには自分の似顔絵や好きな物の絵などを描いた上で一言添えてもらう。低学年の子は家族と相談してもよいこととした。そして出来上がったカードは1階の職員室前の廊下に全員分貼り出すことを伝えた。

新年度、思い思いの自己紹介カードが集まってきた。このカードは上手・下手は関係なく、好きな物を好きなように描いている。動物、食べ物、スポーツ、キャラクター、将来の夢——一枚のカードにその子の個性が表現されている。このカードを通じて、一人一人の子どもとつながることができることを確信した。

### 「コラージュの素材集めに

登校再開に合わせて、2020年度初めての子ども作品として、予告通り一斉に廊下に掲示した(写真)。自分のカードはもちろん、分散登校のため



廊下に掲示された自己紹介カード

ぐには会えない友達のカードを探すがあった。さらにもう一つ課題を出した。「やることがないな……」と思っている子どもたちへ」として、

## 「オンラインまわしよみ新聞」



札幌新陽高等学校 教諭  
細川 凌平

新型コロナウイルスの感染拡大により、各地で休校措置がとられる中、本校では3月時点でオンラインでの授業を開始した。

生徒は一人一台iPadまたはクロームブックを持っており、グーグルのシステムを利用して授業を受けている。今回は、今まで教室で行っていた新聞を取り入れた国語の授業をオンラインで実践する様子を紹介する。授業の設計にあたり、新聞協会のNIEウェブサ

### 「新聞社ワークシートも利用

イトで紹介されている実践例を参考にした。今後オンラインでNIEの実践をする先生の参考になればと思う。

まず「まわしよみ新聞」のオンラインでの実践方法を紹介する。まわしよみ新聞とは、各自興味のある新聞記事を切り抜き、その記事を持ち寄って、討論し

新聞や広告、チラシ、雑誌などから写真やイラストの「切り抜き」を集めることだ。はがきサイズの「コラージュ」を作ってもらおう予定だが、子どもには秘密にした。たくさん情報の中から気に入ったものを探すこと、切り取ってためていくこと自体を楽しんでもらい、休業期間中のストレス解消につなげてほしいと思ったのだ。

こうしてはがきサイズのカードに表現する経験を積み重ね、「はがき新聞」づくりにつなげていきたい。1階の廊下に全校児童のはがき新聞を掲示する日を心待ちにしている。

## 授業目的公衆送信補償金制度が施行 ——今年度は補償金無料

改正著作権法が4月28日に施行され、授業で使う新聞などの著作物を生徒に公衆送信（オンデマンド配信やメール送信など）する場合に、教育機関の設置者（教育委員会や学校法人など）が一定の補償金を支払えば著作権の許諾は不要になりました。20年度に限り、この補償金は無償です（ただし授業目的公衆送信補償金等管理協会＜SARTRAS＞への届け出が必要）。

詳細はSARTRAS (<https://sartras.or.jp/>) もしくは新聞著作権管理協会 (<https://www.jncma.org/>) のウェブサイトをご参照ください。

## 教科書会社が年間指導計画参考資料公表

文部科学省は6月5日、学校再開後の「学びの保障」に向けた総合対策を公表。教科書会社と連携し、授業で扱う部分と家庭学習などでも学べる部分に分けた参考資料を作り、小6と中3用を都道府県教育委員会などに通知しました。他学年用も順次作成するとしています。

各教科書会社でも「学習活動の重点化等に資する年間指導計画参考資料」を作成しており、新聞記事などを資料として活用することも盛り込まれています。詳細は教科書協会のウェブサイト (<http://www.textbook.or.jp/textbook/reference2020.html>) でご確認ください。

ながら壁新聞を作るといふものだ。これには生徒同士の交流が必要になるため、オンライン会議システムを使った。具体的にはグループミーティングやズームのブレイクアウトルームを用いた（写真）。手順は次のとおりだ。

- ① グループごとにオンライン会議システムを使って、話し合う。
- ② 事前にPDFにした新聞記事を教師が配信し、生徒は興味のある記事をスクリーンショットで画像にして保存する。
- ③ オンライン会議システム上で保存した記事を画面共有しながら、グループ討論する。
- ④ 討論で出た内容をグループの表計算ソフト、スプレッドシートにまとめる



オンライン会議で生徒とやりとりする筆者（北海道新聞社提供）

さまざまな機能を使用したり、工夫して活用したりすることで、オンライン上でも十分グループ

ワークができ、まわし読み新聞を実現することができた。ほかにも、新聞社が提供するワークシートをPDFにして配信し、教師の「記事を読んで答えなさい」などの問いに、生徒がグループフォームで回答した。また、クイズアプリ、カフトを用いて「安倍首相は国民に一律何円の給付をすると発表したか」など、教師が新聞クイズ（各問の

回答制限時間20秒）を出した。正解数と回答時間をもとに順位が決まり、上位3人を発表した。生徒は楽しそうだった。

このように、新聞を取り入れた教室の学びを、オンライン授業にすることは可能だ。今後、同じような事態になった時に、いかにして学びを止めないか、オンラインを駆使した学び方が今後求められると思う。

## 第11回「いっしょに読もう！新聞コンクール」作品募集中！

新聞協会は、新聞を読んで気になった記事を選び、家族や友達と話し合った上で、感想や感じたことなどを記入して応募するコンクールの募集を開始しています。応募対象は小・中・高校（高専）生で、締め切りは9月9日（水）必着です。夏休みの課題としても取り組んでいただきやすいコンクールです。多数のご応募をお待ちしています。

応募対象となる新聞は2019年9月9日から2020年9月8日まで。応募用紙は、NIEウェブサイト (<https://nie.jp/>) からダウンロードできます。作品の送付先は都道府県により異なります。詳細は同サイトをご覧ください。



# 新聞の「今」

新型コロナウイルス感染拡大が続いている本年2月27日、安倍首相が一斉臨時休校を要請。ほぼ全校が休校となる中、各紙は工夫を凝らし、子ども向け新聞の発行を続けた。どのようなことに留意して制作を行ったのか、紹介いただいた。

## コロナ禍を子ども目線で記録



高知新聞社  
教育・地域事業室読もっか  
NIE 編集部  
沢田 万亀

高知新聞社の「こども高知新聞」創刊は1950年5月5日にさかのぼる。本紙での毎日掲載を経て今春、週刊タブロイド判12ページの「読もっか ことども高知新聞」として新たなスタートを切ったところだ。主力コンテンツは、高知県内の小学生が投稿する「こども記者だより」。2019年度は170校の約1万人が登録し、記事やイラスト約3万4000本が届いた。その多くは学校での取り組みのため、新型コロナウイルスによる休校で投稿減少が懸念された。

ところが編集部には縮小された入学式や留守番など、今しか書けない心情や暮らしをつづつた記者だよりが連日届いた。そこで「コロナ禍の中で子どもが何を考え、どう過ごしていたのかを子ども自身の目線で記録する」「正確な情報を分かりやすく届ける」——この2点を念頭に編集作業に取り組んだ。いくつかの企画を紹介したい。

### 全児童に紙面配布の学校も

「高知のみんなも身を守ろう」。共同通信の感染予防をテーマにした漫画と、留守番の注意点を掲載。学校からは「子どもにも分かりやすい。コピーして全校児童に配った」という声をいただいた。

「ぼくのわたしのすてきなア



紙面「ぼくのわたしのすてきなアイデア」  
(読もっか こども高知新聞2020年5月8日付)

アイデア」(紙面)。大変な状況を乗り越える工夫を募集し、ユニークなアイデアを紹介。高知県立精神保健福祉センターに取材

## NIE フラッシュニュース

◆NIE全国大会 第26回札幌大会は日程を変更 第27回大会は宮崎市で開催 2021年8月初旬に札幌市での開催が決まっていた第26回NIE全国大会は、東京五輪の日程変更を受け、同月16(月)、17(火)の両日に変更となりました。

また、第27回NIE全国大会は22年夏に宮崎市で開催することが決まりました。

し、メンタル面でのアドバイスを添えた。

「みんな会いたかったよ」。県内では5月25日までに全小学校

本年11月に開催予定の第25回東京大会の最新情報については、NIEウェブサイト (<https://nie.jp/>) でご確認ください。

◆実践指定校に535校 新聞協会は、全国のNIE推進協議会から推薦された535校を2020年度NIE実践指定校に認定しました。実践期間は原則2年間。指定校ごとに配達可能な一般日刊紙が一定期間購読でき、購読料は新聞協会と各新聞社が負担しています。また、17

が再開。休校中の出来事や学校が始まる喜びを書いた記者だよりと、半年間を振り返る表をワイド面にまとめた。

ほかにも在宅勤務する父母へのインタビュなどを展開。一連の紙面への反響として、先生方が児童に宛てて投稿してくれたり、マスク探しに奔走する母を心配する記者だよりを読んだ女性が手作りマスクを寄贈してくれたりした。コロナ前の日常には戻らないが、今後も子どもが人と、社会と、つながる紙面を目指したい。

道府県のNIE推進協議会では独自認定校として計58校を認定しました。

◆無料の知育ゲーム公開 新聞協会は6月4日、新聞を使った知育ゲーム「しんぶんのツツ！すごろく」を特設サイト (<https://np-labo.com/shinbun/>) で公開しました。思考力や表現力などを養える新聞を使った21種類のゲームが楽しめます。

# NIE アドバイサー紹介

- ①学校名 ②担当教科 ③NIE 実践歴  
④新聞を活用するうえでの工夫を一言

(敬称略)



●北海道  
武井 翔

(たけい・しょう)

- ①遠軽町立丸瀬布中学校  
②国語 ③8年  
④新聞を使ったワークシ

ートを使い、読解力の育成を図っている。また、「社会生活」をイメージさせるために、新聞を活用している。



●北海道  
山田 耕平

(やまだ・こうへい)

- ①札幌市立真駒内中学校  
②社会科 ③10年  
④「なぜ」の「問い」が生

まれる新聞記事。授業の導入やコラムの読み比べを通し、子どもの思考を深める手立てとして活用している。



●北海道  
池田 泰弘

(いけだ・やすひろ)

- ①釧路市立北中学校  
②社会科 ③15年  
④新聞は社会の窓口の一つ

である。子どもの社会認識形成と学力向上を図るため、教科書の内容と関連させて新聞を効果的に活用する。



●岩手県  
大竹 博行

(おおたけ・ひろゆき)

- ①一関市立一関小学校  
②小学校全科 ③24年  
④「N(ニュースは)I

(いいものを)E(えらぼう)」を合言葉に、新聞に親しみ、新聞を身近なものすることを大切にしている。



●岩手県

川崎 美希子

(かわさき・みきこ)

- ①盛岡市立松園中学校  
②社会科 ③8年  
④新聞スクラップで、社会

の一員としての意識をもたせたい。また、読み手を意識することで、表現力や発信力が高まると考え留意している。



●茨城県

直井 俊行

(なおい・としゆき)

- ①筑西市立五所小学校  
②国語科 ③12年  
④授業等で活用できると思

う記事は項目別にスクラップしておき、いつでも取り出せるように準備しておくこと。



●茨城県

小岩 泰規

(こいわ・やすき)

- ①牛久市立ひたち野うしく  
中学校 ②社会科 ③34年  
④最大のねらいは「社会を

見る目」を育てること。その過程で読解力、思考力、判断力、表現力も身につけられる工夫が重要である。



●群馬県

林 昭紘

(はやし・あきひろ)

- ①群馬県立高崎商業高等学校  
②商業科 ③1年  
④新聞には最新の情報があ

ふれている。日々進化する経済情勢や技術などに目を向け学習することで、ビジネスの事例学習に生かせる。



●千葉県

磯貝 真規子

(いそがい・まきこ)

- ①千葉県立匝瑳高等学校  
②英語 ③2年  
④気になった記事を切り取

り、毎日同僚と交換することで、どんなに時間がなくても新聞を読み、NIEに役立てよう心がけている。



●千葉県

木村 早苗

(きむら・さなえ)

- ①茂原北陵高等学校  
②国語 ③4年  
④生徒たちが深く考えるき

っかけとなるような記事を選び、教材とするよう心がけている。



●千葉県

瀬和 真一郎

(せわ・しんいちろう)

- ①松戸市立松戸高等学校  
②保健体育 ③10年  
④はがき新聞や切り抜き新

聞作りではルーブリック等を用いた自己評価、相互評価を活用し、内容のレベルアップを目指している。



●静岡県

塚本 学

(つかもと まなぶ)

- ①常葉大学附属常葉中学・  
高等学校 ②社会科/地歴  
・公民科 ③10年  
④教科書と新聞からも学ぶ。学ぶ内容を

つなげることで、社会に興味・関心を持ち、自分の意見をつくり発信できる生徒を育成したい。



●広島県

為重 慎一

(ためしげ・しんいち)

- ①広島国際学院中学校・高  
等学校 ②中学校社会科・  
地歴公民 ③9年  
④新聞学習を通して生徒に学びの風景を

描かせている。多面的、総合的に評価される今、NIEから自らの未来像をデザインさせている。



●広島県

鶴田 輝樹

(つるた・てるき)

- ①広島大学附属中・高等学校  
②社会科・地理歴史科  
③10年  
④新聞データベースなど、ICTを活用し

ながら、オリジナルの新聞づくりを行い、生徒の思考力や表現力の育成を目指している。



●島根県

孝忠 康裕

(こうちゅう・やすひろ)

- ①松江市立雑賀小学校  
②小学校 ③4年  
④まずは新聞を広げ、目を

通すことから取り組めるようにしたい。短い時間で継続的に新聞と関われるような実践を行っている。



●島根県

山本 悦生

(やまもと・えつお)

- ①津和野町立津和野中学校  
②社会科 ③4年  
④スクラップした新聞記事

の中から、どれを提示し、どんな課題追究させるのかを検討することは、教材研究の醍醐味の一つである。



本校では「思考力・判断力・表現力を高め、互いに学び合う

赤二つ子の育成、読解力を高め、自分の言葉で表現するための指導」を研究課題として、国語の教員研修をしている。読解力を高め、自分の思いを表現するには、新聞を通して語彙を豊かにする必要がある。さらに新聞でさまざまな世界を知ることによって視野を広げることも大事で、ここにNIEの可能性を感じている。

NIE活動（毎週火曜日の朝に実施）では、自分が注目する記事を見つけ、切り抜きをし、

### 事務局長から一言

鴻巣市立赤見台第二小学校のNIE実践の特徴は、全校を挙げて取り組んでいることに加え、保護者や地域の方を巻き込んで

要旨をまとめたり、感想を書いたりする新聞スクラップ作りをしている（写真上）。高学年では一つの事象を取り上げた1社の新聞記事を継続して読んだり、

同じ出来事を報じた複数の新聞記事を読み比べたりしている。廊下に掲示された仲間の新聞スクラップを見ることで、子どもとの会話に多様性が生まれた。

## 鴻巣市立赤見台第二小学校

教諭 分須 美智子

◎埼玉県鴻巣市／校長・江原 新治／児童数・299人  
◎特色・本校は「あかるく元気な子・かんがえて勉強する子・みんなとよくする子」を学校教育目標とし、家庭・地域を巻き込んだコミュニケーション能力の向上と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置き教育活動に取り組んでいる。18年「いっしょに読もう！新聞コンクール」において、「優秀学校賞」を受賞。



新聞スクラップ作り



巨大新聞くす玉作り

いることだ。さらに、国語や社会など主要教科のほか、低学年では新聞に親しむことを目的に、切り抜いた記事を使ってけん玉やくす玉を作るなど工夫を凝らしていることにも感心する。

さらに、何よりも先生方が勉強熱心で、夜間に開催している教員向け月例研修会「学ばナイト」に毎回、担当の先生や管理職の方だけでなく、若手の先生を含め代わる代わる複数で参加

また、読む人を意識した見出しやレイアウトの工夫もできるようになっている。

NIE活動の様子を学校便りやPTA広報誌に掲載し、保護者や地域の人に配布している。

昨年度は、地域ボランティアの協力も得て、「巨大新聞くす玉」作りを実施できた（写真下）。

新聞記事は小学生にとって理解が難しい場合もあるが、サポートを受けながら、子どもの気に入った記事や写真をくす玉の表面に目立つように貼っていった。

今年度、研究の一環として国語の年間指導計画に新聞活用を明記した。新型コロナウイルス感染症拡大防止を受けた長期の休校があり、学習が思うように進められていないが、年間を通して、NIE活動の実践に取り組んでいきたい。

されている。

今後とも模範的な学校として、県内の実践を引っ張って行っていただきたい。

（埼玉県NIE推進協議会事務局長・吉田俊一）



南日本子ども新聞「オセモコ」には昨年10月に始まった「タニ先生」の新聞まるわかりという連載がある。学校などでの出前授業「よむのび教室」を担当する読者センターの「タニ先生」こと谷上英文デスクが執筆している◆記事を書くポイントやインタビューのこつなどを実際の紙面を例に紹介。5月の「見出しを付ける」の回では

一目で伝わる見出しをつけるために編集部が苦心していることを伝えた。NIEに取り組む先生方に、授業で連載を活用してもらえれば、という願いも込める◆新型コロナウイルス感染症拡大の影響で断続的に休校となったことで、学校の授業計画は厳しい。だが、こんなときだからこそ新聞を通じてこれからの社会のあり方について考えるNIEの意味があるのではないかと「新聞まるわかり」がその一助になればと思う。

（南日本新聞社・海江田由加）